

「研究部:共通講座レジュメ」

シニア自然大学校

2023年6月7日

野外活動で出会う害虫の生態と その対策

兵庫医科大学医学部皮膚科学
夏秋 優

本日の話題

- * ハチ刺症
- * ムカデ咬症
- * セアカゴケグモ咬症
- * カ刺症
- * ブユ刺症
- * アブ刺症
- * ネコノミ刺症
- * マダニ刺症
- * 毛虫皮膚炎

* 皮膚炎の原因となる主な虫 1、刺す虫 2、咬む虫 3、血を吸う虫 4、皮膚に触れる虫・・・について

1、ハチについて

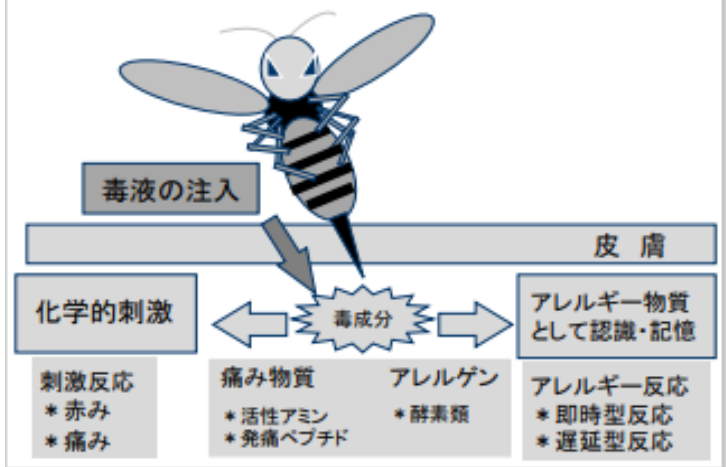
各種のハチ(大きさの比較)



・ ハチ毒に含まれる主な成分について アミン類

・ ハチ刺症の症状について ○ 局所の症状 ○ 全身の症状 ○ 遅延型アレルギー反応について

ハチ刺症における皮膚炎の起こり方



低分子 ペプチド 酵素類 について。

ハチアレルギー

- * はじめてハチに刺されてもアレルギー反応は起きない。
- * 一度、ハチに刺されると、体はハチ毒を覚える。
(アレルギー反応を起こす「抗体」ができる。)
- * 2回目以降のハチ刺されでアレルギー反応が起こる。
- * 回数が多い人の方が強いアレルギーが起こりやすい。
- * 前回のハチ刺されで強い症状が出た人は、次が怖い。
(アナフィラキシーショックを起こす可能性がある！)
- * 中には刺され続けることで「慣れる」人もいます。

* ハチ類に刺されたときの対処の仕方について

* 局所症状の処置について

- * 全身症状の救急処置について
 - ・安全な場所で仰向けにして頭を低くする
 - ・手足を刺されたときは、心臓に近い側を軽く縛る
 - ・エピペンを大腿外側に駐車して、救急車を呼ぶ。

○ ハチに刺されないための対策について

2 咬む虫(ムカデ・クモ)について

ムカデ



トビズムカデ: 代表的なムカデで、体長7～15cm。
昼間は岩や植木鉢の下などに生息。
夜間にしばしば室内に侵入する。

ムカデ咬症への対応

- * ムカデの家屋内への侵入は予防しにくい。
(特に山間部や畑周辺の日本家屋)
- * 靴やスリッパの中、植木鉢や石の下に注意する。
- * 咬まれたら43℃での温熱療法が疼痛に有効との報告があるが、冷やす方が無難。
- * 炎症には強いランクのステロイド外用薬を塗る。
- * アナフィラキシーショックを生じる例があるので注意が必要(ムカデ毒はハチ毒との類似性がある)。

* セアカゴケグモとはどのようなクモか？

・
・
・

セアカゴケグモ



雌は体長約10mm。全体に黒色調で、腹部に赤い斑紋がある。



雄は体長約4mm。全体に褐色調で、斑模様になっている。

- * おとなしい性質。
- * 自分から攻撃はしてこない。
- * 小型の昆虫類を餌として生活。

セアカゴケグモ咬症の診断

- * セアカゴケグモ咬症と確定診断するには咬んだクモの実物を確認する必要がある。
- * 患者が虫体を持参しない場合は、疼痛をきたす他の虫刺症(ハチ刺症、アリ刺症、サシガメ刺症、イラガ幼虫刺症など)および急性腹症や心筋梗塞などの内臓疾患との鑑別が必要になる。(マムシ咬症は除外可能)
- * 小児では足を咬まれても「腹痛」を訴える場合があり、腸重積との鑑別も必要になる。
- * 「咬み痕」が見当たらないこと、疼痛が次第に増強することなども診断の参考になる。
(ムカデの場合、咬み痕があり、初期に激痛がある。)

セアカゴケグモへの対策について

3 血を吸う虫への対策

アカイエカ ヒトスジシマカ



- * 主に屋内で活動
- * 深夜に吸血する
- * 成虫で越冬する



- * 主に屋外で活動
- * 昼間に吸血する
- * 卵で越冬する

カ刺症における皮膚反応

ステージ	皮膚の反応	主に認められる年齢*
Stage 1	無反応	新生児期
Stage 2	遅延型反応のみ	乳児期～幼児期
Stage 3	即時型反応および遅延型反応	幼児期～青年期
Stage 4	即時型反応のみ	青年期～壮年期
Stage 5	無反応	老年期

* 日本人の一般的なパターンで、例外も多い。地域によって異なる

ブユ

(俗称:ブヨ、ブト)



アシマダラブユ

特徴

- * 体長:2~3mm
- * 高原や溪流沿いに生息する。
- * 朝夕に吸血する。
- * 吸血部に小出血を認める。

アブ

特徴



イヨシロオビアブ



アカウシアブ

- * 体長:10~25mm
- * 高原、溪流沿い、牧場などに生息する。
- * 吸血時に皮膚を傷つけるので、出血と痛みを伴う。

ネコノミ

特徴



- * 体長2~3mm
- * 主にネコに寄生。
- * 庭、公園、室内に成虫がいる。
- * 地面から約30cmジャンプする。
- * 主に下腿部から吸血する。

日本の主な感染症媒介マダニ

1)キララマダニ属

- * タカサゴキララマダニ・・・西日本に多い
- 重症熱性血小板減少症候群を媒介



2)チマダニ属

- * フタトゲチマダニ・・・西日本に多い
- 重症熱性血小板減少症候群を媒介



- * ヤマアラシチマダニ・・・西南日本に多い

■日本紅斑熱を媒介

3)マダニ属

- * ヤマトマダニ・・・北～東日本に多い

■ダニ媒介性脳炎を媒介

- * シュルツェマダニ・・・北海道、本州中部に多い

■ライム病を媒介



* マダニの特徴について

* マダニ虫体の除去について

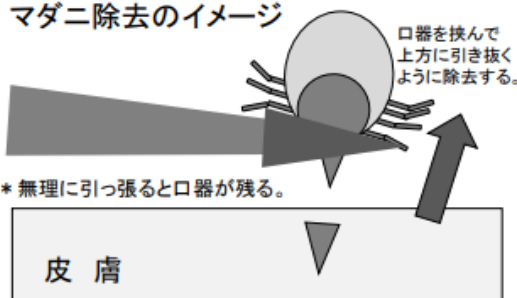
* マダニに刺されないために

マダニ刺症における医療機関受診の必要性について

* 皮膚に吸着するマダニを発見しても、発熱がなく全身状態にまったく問題がない場合は緊急性はない。(慌てて医療機関を受診する必要はない。)

* 吸血時間が長くなると感染症のリスクが上昇する可能性があることから、早目にマダニ虫体を除去することが望ましい。
(できれば1~2日以内に除去処置を受ける。)

ピンセットによるマダニ除去のイメージ



* 除去できなければ局所麻酔をして皮膚とともに切除。

メモ

* 虫除け剤について

ディート(ジエチルトリアミド)について

イカリジン(ピカリジン)について

4 皮膚炎を起こす虫について

毒針毛をもつガ

毒棘をもつもの

チャドクガ *Arna pseudoconspersa*

- 分 布: 本州、四国、九州
- 発 生: 成虫… 年2回(6~7月、9~10月)
幼虫… 年2回(5~6月、8~9月)
- 越冬態: 卵
- 食 樹: ツバキ、サザンカ、チャ(ツバキ科)
- 毒針毛: 卵、幼虫、成虫、脱皮殻に存在

チャドクガの周年経過

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
卵				幼虫		成虫	卵		幼虫	成虫	卵

ヒロヘリアオイラガ *Parasa lepida*

- 分 布: 関東以西
- 発 生: 成 虫… 年2回(6月、8月)
幼 虫… 年2回(7~8月、9~10月)
(越冬態: 繭)
- 食 樹: サクラ、バラ、ケヤキ、クスノキ、カエデ、
ナンキンハゼ、エノキなど(広葉樹)
- 有毒毛: 毒 棘… 幼虫、毒針毛… 終齢幼虫、繭

ヒロヘリアオイラガの発生サイクル

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
繭					成虫	幼虫	繭	成虫	幼虫	繭	

ドクガ類の毛虫による皮膚炎の治療

- 毎日、皮膚をセッケンでよく洗う。
- 毛虫に触れた時に来ていた衣服は、しっかり洗濯する。(毒針毛が残ることがある。)
- ステロイド外用薬をしっかり塗る。
(市販の塗り薬でもよいが、やや弱い。)
- 皮膚症状が強い時はステロイドを内服する。
(痒みに対しては抗ヒスタミン薬を併用する)